

ぽろしり（チップス用）

—ジャガイモシストセンチュウとそうか病に抵抗性を持つ新品種—

カルビーポテト(株)
馬鈴薯研究所 品種開発課 課長

つやま むつお
津山 睦生

1 育成の背景

近年、国内のばれいしょの作付面積、生産量ともに減少傾向であるが、ポテトチップス用についてはここ数年増加傾向にあり、今後も拡大が期待される。

一方で重要な土壌病害虫であるジャガイモシストセンチュウやそうか病の発生地域は拡大傾向にあるが、現在ポテトチップス加工用の主力品種である「トヨシロ」はこれら病害虫の抵抗性を有していない。そこでジャガイモシストセンチュウとそうか病の抵抗性を併せ持つポテトチップス加工用品種の登場が強く望まれている。

2 来歴および育成経過

「ぽろしり」はジャガイモシストセンチュウとそうか病に抵抗性のある加工用品種の

育成を目標とし、そうか病に抵抗性のある「ノーキングラセット」を母、ジャガイモシストセンチュウとそうか病の抵抗性がある「Pike」を父に用いて2003年に人工交配を行い、以降選抜を繰り返して育成された品種である。2012年から北海道ばれいしょ奨励品種および輸入品種等選定試験に供試し、加工用原料品種として実用性が検討され、2015年に北海道優良品種に登録された。

3 品種特性の概要

（1）形態的特性

そう性は「トヨシロ」と同様のやや直立型で、茎長は「トヨシロ」よりやや短い。茎はアントシアニンの着色が強く、「トヨシロ」より太い。花は薄い紫色で花数は「トヨシロ」より少ない（写真1）。塊茎の形



写真1 ぽろしり 草姿



写真2 ぼろしり 塊茎

は卵形で芽は非常に浅く、表皮は淡ベージュでややラセット状を示す。塊茎の肉色は白（写真2）。

（2）収量および生態的特性

初期生育は「トヨシロ」並みで、枯凋期は「トヨシロ」より7日程度遅い中生である（表1）。

規格品1個重は「トヨシロ」並みかやや大きい。規格品率がが高く、規格品収量は「トヨシロ」より優れる。比重・でん粉価は「トヨシロ」よりやや低い。褐色心腐れや中心空洞など内部障害の発生は「トヨシロ」よりも少なく、裂開、二次成長などの外観異常の発生は「トヨシロ」並みである（表2）。

表1 「ぼろしり」の生育・収量特性

品種名	茎長 (cm)	変黄期	熟期	比重	でん粉価 (%)
ぼろしり	62.2	8月22日	中生	1.088	15.7
トヨシロ	66.8	8月14日	中早生	1.090	16.0

品種名	規格品 個数 (個/株)	規格品 平均重 (g)	規格品 率 (%)	規格品 収量 (kg/10a)	トヨシロ 対比 (%)
ぼろしり	7.8	122	89	4,684	109
トヨシロ	7.6	116	84	4,298	100

※カルビーポテト(株)試験結果による。

表2 病障害発生率

品種名	中心 空洞	褐色 心腐	そうか病	粉状 そうか病	変形 裂開	二次 成長
ぼろしり	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.6%
トヨシロ	0.7%	0.1%	7.5%	5.2%	0.2%	0.2%

※カルビーポテト(株)試験結果による。

表3 病害虫抵抗性

品種名	ジャガイモ シストセンチュウ	そうか病	疫病	塊茎腐敗	Yウイルス
ぼろしり	強	やや強	弱	弱	弱
トヨシロ	弱	弱	弱	やや弱	弱

※病害虫抵抗性は、北見農業試験場、中央農試における特性検定試験による。

そうか病、粉状そうか病ともに、罹病率は「トヨシロ」より低い。

(3) 病害虫抵抗性

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性があり、そうか病抵抗性は「やや強」である（表3）。Yウイルス抵抗、疫病抵抗性、塊茎腐敗抵抗性は「弱」である。

(4) 加工適性

収穫時のチップカラーは「トヨシロ」並みだが、長期貯蔵により還元糖が増加しチップカラーが低下するため、ポテトチップ用原料としての使用時期は1月頃までを想定している。またポテトスナックの適性も有する。

4 適地および栽培上の留意点

「ぼろしり」はジャガイモシストセンチュウとそうか病に抵抗性があるため、それらに抵抗性のない「トヨシロ」では作付けが困難であった圃場でも栽培が可能となり、加工用ばれいしょの作付面積の拡大が期待される。また種苗生産においてもジャガイモシストセンチュウ抵抗性への置き換えは急務であり、「ぼろしり」の普及により、健全な種いも生産への貢献が期待される。

栽培上の注意

「ぼろしり」は「トヨシロ」より疫病および夏疫病に罹病しやすく、塊茎腐敗抵抗性が「弱」のため、薬剤の選定や防除間隔に留意する必要がある。また、比重・でん粉価の低下を抑えるために適切な施肥設計や栽培管理を行い、完熟塊茎の生産に努めること。